

24 環系抗うつ薬(トフラニール)による循環不全に対し経皮的心肺補助法を施行した1例

木下 秀則・広瀬 保夫・宮島 衛
田中 敏春・熊谷 謙・飯沼 泰史
山崎 芳彦

新潟市民病院救命救急センター

症例は32才女性。三環系抗うつ薬を含む数種類の内服薬を大量服用後、10数時間して体位変換を契機に徐脈となり脈拍触知不能となった。三環系抗うつ薬のキニジン様作用によるショックと判断し、人工呼吸管理を開始するとともに経皮的な心肺補助法(PCPS)を導入した。翌日循環作動薬のみで循環維持が可能と判断しPCPSより離脱した。環系抗うつ薬は抗コリン作用により腸蠕動が抑制され、薬理作用の発現・消退に時間を要することがある。当初は軽症に見えても吸収が進むにつれ、本例のように突如循環不全を来すこともある。ひとたび循環不全に陥った場合には薬剤抵抗性であることが十分考えられ、また薬剤が代謝・排泄されれば予後の改善が期待できることからPCPSの良い適応と考えられた。

25 新潟大学医歯学総合病院研修医 ACLS コースについて

本多 忠幸・遠藤 裕

新潟大学医歯学総合病院救急部

【はじめに】新潟大学医歯学総合病院では、平成16年度から卒後臨床研修ローテーションが開始され、それに伴ってACLSに準拠した指導内容の心肺蘇生法講習会を開催した。

【コース概要】対象は、平成16年度新人研修医44名で、1日コースの講習会を2日間連続で行った。コース内容は、座学を短時間にとどめ、実技主体のプログラムを設定した。

【アンケート結果】コース内容の印象は、「講習会の時間が短い」という他は、概ね良好であった。受講者の自己評価では「適切なチーム蘇生の習得」、「1次・2次のABCD評価」、「BLSやAEDの習得」、「除細動の適応判断と安全使用」については80%以上が目標達成したとした。

【考察】心肺蘇生法講習会は、インストラクター側への負担が大きかった。また、研修医のモチベーションにかなりの差が認められ、必修化に伴う問題点と考えられた。

II. 特別講演

「肺移植の麻酔と集中治療」

岡山大学大学院医歯学総合研究科
病態制御科学専攻病態機構学講座
(麻酔・蘇生学) 助教授

五 藤 恵 次

第16回 新潟周産母子研究会学術講演会

日 時：平成16年7月24日(土)

午後2時～

場 所：新潟大学医学部

有壬記念館 大会議室

I. 一般演題

1 クレチン症マスキングの精度向上を目指して～すべての新生児に対して生後4～7日に検査を～

長崎 啓祐・樋浦 誠・菊池 透
浅見 直・内山 聖

新潟大学大学院医歯学総合研究科
小児科学分野

クレチン症マスキングの目的は、甲状腺機能低下症児を早期に診断し、適切な治療により後遺症を回避し、正常な発育発達をもたらすことである。早期発見の目的を達成するためには、まずすべての新生児に対して日齢4～6日目で初